

科目名	微生物学			ナンバリング	BSS114	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	金容必	担当教員					

授業の概要	微生物の中にはヒトに病気を引き起こす病原微生物が存在し、それらは感染症の原因となる。感染症の検査・診断・治療の過程だけではなく、院内感染の対策で、重要な役割を担う看護師にとって、微生物についての理解は重要である。看護学を学ぶうえで必要な病原微生物の分類および特徴に関する基本的な知識を修得し、あわせて感染経路と潜伏期間についてもこの講義で学修する。また、感染予防策として、滅菌や消毒などの予防法について学び、感染蔓延を防ぐ手段として感染症の現状とその対策について適切な知識を修得する。						
到達目標	1 生態系の中での微生物の役割について説明できる。 2 細菌、真菌、原虫、プリオンやウイルスなどが引き起こす疾患について説明できる。 3 滅菌、消毒、殺菌の概念を説明できる。 4 現代における様々な感染症についてその予防対策を含め説明できる。 5 感染における体の生体防御について予防接種を含め説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	各回のテキストの範囲を熟読することにより予習をし、授業に臨むこと。また、毎回学習した内容を整理して、ノートにまとめること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
		1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
		3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①微生物の系統的な分類が説明できる。 ②様々な微生物が引き起こす代表的な疾患を列挙できる。 ③様々な感染症について説明できる。 ④滅菌、消毒などについて概念を説明できる。 ⑤微生物由来の代表的な毒素について説明できる。 ⑥体の生体防御について説明できる。	①微生物が引き起こす代表的な疾患を列挙し、その対策を含め説明できる。 ②感染症について感染症法に基づき分類ができ、その対策について説明できる。 ③微生物由来毒素についてヒトの細胞における影響を作用機序含め概説できる。 ④感染における体の生体防御について予防接種を含め説明できる。 ⑤感染症の治療について説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			5回以上の欠席は受験資格なし。

課題、評価のフィードバック	1 期末解答用紙は、学生に開示して点数の確認並びに不正解の問題を解説する。 2 最終成績が60点未満の学生には一定の学習時間をおいて再試験を受けさせる。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	微生物とは	生態系の中での微生物の役割および分布について解説する。	
	第2回	細菌の構造と系統的分類	細菌を列挙し、さらに細菌の構造および系統的分類について解説する。	
	第3回	グラム陽性菌	グラム陽性菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第4回	グラム陰性菌	グラム陰性菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第5回	その他の特殊な細菌たち	抗酸菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。	
	第6回	真菌	真菌の特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第7回	原虫、寄生虫、プリオン	代表的な原虫、寄生虫およびプリオンが引き起こす疾患について解説する。	
	第8回	DNA ウイルス	主なDNAウイルスが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第9回	RNA ウイルスI	主なRNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第10回	RNA ウイルスII	主なRNAウイルスが引き起こす代表的な疾患について解説する。	
	第11回	感染症の現状とその予防対策	現代における感染症について、代表例を挙げて説明する。感染症法についても解説する。	
	第12回	院内感染の予防対策	院内感染について、発生原因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を解説する。	
	第13回	感染と生体防御	感染における体の生体防御について予防接種を含め解説する。	
	第14回	微生物の毒素	代表的な微生物の毒素について解説する。	
	第15回	感染症の治療	化学療法に用いられる代表的な薬剤について解説する。	
	試験	全講義終了後に定期試験を実施する。試験範囲は全範囲で理解度を確認する。		
授業の進め方		基本的には講義と質問応答とする。		
授業外学習の指示		配布資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教員に質問して確認しておく。次回の予習は教科書を用いて担当箇所を読み概要を理解しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	疾病の成り立ち③ 臨床微生物・医動物 MCメディカ出版
参考書	微生物学 疾病のなりたちと回復の促進④ 医学書院 ISBN978-4-260-01827-2
参考URLなど	なし
その他	